

科目ナンバー	LIN-2-004-e			科目名	言語学II		
教員名	小林 恵美			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	言語学とは、言葉の特性を研究する学問です。この授業では、言語の意味を研究対象にする意味論、コミュニケーションの中で言語が実際にどのように用いられるかを研究する語用論、言語の習得と使用に欠かすことのできない認知過程を研究対象とする心理言語学、言語と社会の関係を探る社会言語学について学んでいきます。						
到達目標	言語学の基礎知識や方法論等を学び、日常生活に於ける言葉の使用に対する意識を高める。						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力	○	伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度		自己を抑制する力		協働する力		構想し、実行する力	
グローバル・マインド		主体性		関係を構築する力		実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	講義及びグループ発表を中心に実施。 グループ発表の準備は、授業時間外に実施(発表内容は評価方法欄を参照)。 また、発表担当者以外の方も、テキスト範囲を授業前に読み、内容を把握して授業に参加することが前提。 授業時間では、内容理解を促す目的で、グループやペアでの話し合いも随時実施。 前期授業の最終日には、ポスター発表を実施。						
アクティブラーニング	○	サービ斯拉ーニング			課題解決型学修		
受講条件 前提科目	言語学Iの単位取得者講義だけでなく、ペアやグループ活動、グループでの発表を実施することもあり、積極的に参加できる方						
アセスメントポリシー及び評価方法	<p>①グループ発表(20%) 内容:テキストの指定箇所について。発表はテキストの内容をまとめることで十分だが、テキストを音読するのではなく、可能なかぎり自身のことばで説明するよう努めること。必要に応じて関連するテキスト以外の資料にも目を通し、補足情報も加えられると尚良い。当てはまる例など内容に関連する事柄を紹介したり、何故そう考えたのか理由を説明したりするのも、良い。 発表時間:20分〜30分。 発表時間はグループ内で平等になるよう考慮すること。 視覚資料:パワーポイントを必ず作成。 発表日の前日(月)の夕方5:30までに担当者に添付送信。 授業時間までに担当者がmoodleに視覚資料をアップロードするため、授業でのパワーポイント資料の配布はしない。 採点:発表15%、視覚資料5%</p> <p>②授業での学びについての内省文(10%)</p> <p>③リフレクション(20%) 教科書・授業で理解したことを自分のことばでまとめ、それに関する意見に理由や例を必ず添えて文章化したもの。この他、学習内容に該当する例を提示し、その関係性や理由を説明するのも良い。</p> <p>④中間テスト(20%)・期末テスト(20%) 学習内容の学びの確認として、テキストの復習問題他テキスト内容を題材にした問題。</p> <p>⑤ポスター発表(10%) 2〜3名のグループで、The five minute linguist: Bite sized essays on language and languages" から興味のある章を選択し、その内容をポスターにまとめる。少人数の聴衆に向けて、担当章の内容説明を数回実施。</p> <p>上記の5項目を基に総合的に評価。以下評価に関する 注意点:1.発表担当日に欠席(公欠は除く)した場合は減点の対象となる。 但し、公欠の場合でも後日発表内容に関するレポート提出が求められる。 2.発表担当日以外で公欠の場合は、予定に沿って教科書を読み、理解した内容を自分のことばでまとめたレポートを提出。提出されない場合は、総合点より減点。 3.リフレクションは原則として指定提出日時以降は受け取らない。</p>						
教材	【著】ジョージ・ユール【翻訳】今井邦彦・中島平三(1987).『現代言語学20章:ことばの科学』.大修館書店。 その他配布資料						

参考図書	Yule, G. (2010). The study of language (4th ed.). Cambridge: Cambridge University Press. Rickerson, E. M., & Barry Hilton, B. (Eds.). (2012). The five minute linguist: Bite sized essays on language and languages (2nd ed.). London: Equinox. 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健(2004).『言語学第2版』.東京大学出版会. 佐久間淳一・加藤重広・町田健(2004).『言語学入門』.研究社.		
------	--	--	--

内容・スケジュール			
1週目			
授業学修内容	シラバス授業: 授業の概要、授業評価方法の説明、テキストの紹介		
授業外学修内容	第11章を読み、質問を用意	時間数	1
2週目			
授業学修内容	第11章・意味論と語用論(pp. 128136)「意味論とは・概念的意味と連想的意味・意味素性・語彙関係・同義関係・反義関係・上下関係・異綴同音意義性、同綴同音意義性、多義性」ことばが表す基本的な本質的な意味と、連想や含意ということばに付随するものについて学び、意味とは何かについて考える。この他、同義関係、反義関係、上下関係といった語と語に成り立つ意味関係などについて学ぶ。グループ及び発表予定を決める		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第12章を読み、質問を用意	時間数	2
3週目			
授業学修内容	第11章・意味論と語用論(pp. 137147)「話し手の意図の解釈・脈略・直示的表現・前提・発話行為」12章: 談話分析(pp. 148162)「談話の解釈・つながり・一貫性・ことばによる催し・会話のやり取り・協調の原理・予備知識」人は、ことばを用いて様々な行為を達成している。ここでは、「話し手が何を意味しようとしているのか」の解釈に取り組む。この他、非文法的な文でも理解しようと読み手が努めていることや、会話をすすめる際運用している様々なルールについても考える。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第13章を読み、質問を用意	時間数	2
4週目			
授業学修内容	13章: 言語と器械(pp. 166176)「音声合成・人工知能・構文解析器・言語理解システム・イライザ・シャルドル」コンピュータによる、英語のような「自然言語」処理に関する成果について学ぶ。特に、「合成音声」、「人工知能」、「言語分析」といった内容の理解に焦点をおく。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第14章を読み、質問を用意	時間数	2
5週目			
授業学修内容	14章: 言語と脳(pp. 179192)「脳の各部・局在論・他の見方・舌先現象と言い間違い・耳分離聴法・臨界期・ジーニー」脳の中の言語機能に関する特定の領域に関する発見について学ぶ。また、局所的な脳の損傷による言語機能障害である失語症患者の発話例を題材に、脳の担う言語機能について考える。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第15章を読み、質問を用意	時間数	2
6週目			
授業学修内容	15章: 母語の習得(pp. 195213)「基礎条件・習得の予定表・論争点・保育者のことば・前言語段階・一語期または全体句期・二語期・電報文・習得過程・形態論・統語論・意味論」人が母語(一つ目の言語)を身につけていく過程につて学ぶ。母語習得に必要な基礎条件に始まり、前言語段階、一語期、二語期、電報文などといった特徴的な習得過程について学ぶ。		
授業外学修内容	中間テストに向けて復習指定された章について内省文を作成	時間数	4
7週目			
授業学修内容	中間テスト		
授業外学修内容	第16章を読み、質問を用意	時間数	1
8週目			
授業学修内容	16章: 第2言語の習得／学習(pp. 216224)「習得の壁・教授法・習得過程」2つ目の言語を習得する時に経験する困難の原因について学び、第二言語教授法の歴史をたどる。また、習得過程に見られる過剰一般化や母語が第二言語学習にもたらす影響についても学ぶ。		
授業外学修内	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第17章を読み、質問		

容	を用意	時間数	2
9週目			
授業学修内容	第17章:手話(pp. 227237)「口頭法・手話英語・ASLの起源・サインの構造・サインの意味・ASLによる筆記・ASLは言語システム」手話とジェスチャーの違いに始まり、手話の発達やその認知度について知り、手話が英語や日本語といった言語の1つなのか考えていく。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第18章を読み、質問を用意	時間数	2
10週目			
授業学修内容	18章:言語の歴史と変化(pp. 240254)「系統樹・系統関係・比較再建・言語変化・古英語・中英語・音変化・統語上の変化・語彙の変化・変化の過程」言語間の系統関係を見出す比較再建という手法や、言語変化の特徴について英語を題材に音、統語、語彙などの変化について学ぶ。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第19章を読み、質問を用意	時間数	2
11週目			
授業学修内容	19章:言語の多様性(pp. 257268)「標準語・アクセントと方言・地域方言・二言語併用者・言語計画・ビジョンとクレオール」標準語という一つの言語変種について考えたり、アクセントと方言の違い、地域方言などについて学ぶことで、言語・方言は平等であるかどうかを考える。この他、二言語併用という言語環境や、言語計画、植民者や現地住民の言語について学ぶ。		
授業外学修内容	講義での学びについて内省文を作成、復習問題を解く、第20章を読み、質問を用意	時間数	2
12週目			
授業学修内容	第20章:言語、社会、文化(pp. 272285)「社会方言・個人方言・スタイルと言語使用域・二変種使い分け・言語と文化・言語決定論・サピア・ウォーフの仮説・言語の普遍性」地域差とは直接関係がない言語的特色について考える。社会方言や個人方言、スタイルと言語使用域について学ぶ。この他、言語が思考を決定すると考える「言語決定論」などについて学ぶ。		
授業外学修内容	講義で理解したことをまとめる 復習問題を解く	時間数	1
13週目			
授業学修内容	Flex day		
授業外学修内容	ポスター発表の準備(配布されたリーディングを読む)	時間数	2
14週目			
授業学修内容	ポスター発表準備The five minute linguist: Bitesized essays on language and languages" から興味のある章を選択し、その内容をポスターにまとめる。受講者数によるが、2〜3名で1章(4〜5頁程度の英文)担当。ポスター発表実施方法については、本授業で説明。"		
授業外学修内容	ポスター発表の準備(発表内容の準備とポスター作製)	時間数	3
15週目			
授業学修内容	ポスター発表少人数の聴衆に向けて、担当章の内容説明を数回実施。		
授業外学修内容	発表からの学びを振り返るワークシート作成 期末テストに向けて復習 指定された章について内省文を作成	時間数	4
上記の授業外学修時間の合計		32	
その他に必要な自習時間		58	

Number	LIN-2-004-e	Subject	Linguistics II		
Name	小林 恵美(Kobayashi Emi)	Year and Semester	Second semester for 2020	Credits	2
Course outline	Linguistics is the scientific study of human language. This course will cover semantics, pragmatics, psycholinguistics, and sociolinguistics. Upon successful completion of this course, you should be able to understand and explain what these subareas of linguistics entail.				

